

## 【補足資料】八潮新校準備委員会（第1回） 議事詳細

- 1 日 時 令和5年1月23日（月） 午後3時開会  
午後4時30分終了
- 2 会 場 県立八潮南高等学校大会議室
- 3 出席委員 臼倉委員長、町田副委員長、久保副委員長、菊池委員、山本委員、栗田委員、藤波委員、砂賀委員、秋元委員、山崎委員、北島委員、福良委員、佐藤委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 栗藤、中島、坂本、高辻、橋本
- 5 協議等 「八潮新校基本計画検討（案）」について  
臼倉委員長 次第3、協議に入ります。まず、事務局から本委員会についての説明をお願いします。  
事務局 （新校準備委員会、今後のスケジュールについて説明）  
臼倉委員長 ただ今の事務局からの説明について、何か御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、続きまして、既に令和4年10月に策定、公表されました、魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について、事務局から説明をお願いします。  
事務局 （魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について説明）  
臼倉委員長 何か御質問等はありませんでしょうか。菊池委員、お願いします。  
菊池委員 後ほど説明があるのかもしれないのですが、確認です。生徒の募集についてのことなのですが、それぞれの募集の人数は既に決まっているのでしょうか。  
事務局 それは、新校基本計画検討委員会と、こちらの新校準備委員会で検討していきますが、今日はまだそのところは白紙の状態です。今後、2回目以降でそういったところをしっかりと検討していただければと考えております。現在は未定ということでございます。  
菊池委員 分かりました。  
臼倉委員長 非常に大事なところかと思えますけれども、この後ということでもよろしく願いいたします。その他、何かございますでしょうか。それでは続きまして、新校基本計画検討委員会で検討されました、八潮新校基本計画検討（案）について、御協議をお願いします。まずは、事務局から資料の説明をしますが、ボリュームがありますので、途中切りながらということをお願いできればと思います。  
事務局 （八潮新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について説明）

臼倉委員長 事務局から説明がありましたが、新校の基本理念ですね、目指す学校ですとか育てたい生徒像ですとか、基本的な部分になってくるかと思います。学校の方向性にも関わる事かかと思しますので、まずこの点について、御意見、御質問等があればお願いいたします。栗田委員、お願いします。

栗田委員 目指す学校の論点のところにある、株式会社の設立というのは、すごく基本的な質問なのですが、これは本当に設立するのですか。

事務局 他県では実際に立ち上げている学校もあるようです。ですが、それを模倣的にやるというやり方もございますし、ここではリアルなものをとということで提案していますけれども、それに向けて進めていこうというものでございます。

栗田委員 ありがとうございます。全国に2校しかない、鹿児島県と岐阜県ということですよ。結構これは、売りになると思いました。

臼倉委員長 ありがとうございます。具体についてはこれからということですが、これくらいのことを目指して新校を立ち上げていくということかかと思ます。その他、いかがでしょうか。

佐藤委員 栗田委員からお話があったところの確認というか、パイロット校ですね、こちらについて、どんなことをイメージしているのかなというところと、あと、今回そのパイロット校を打ち出した背景的な部分についても御説明いただければと思います。

事務局 今回このような書き方をさせていただいているのが、埼玉県における商業教育というのが、これまでは会計や簿記などといった指導にかなり力点を置くようなところがございました。よくニュースなどで報じられますけれども、簿記検定で高度な資格を取得したという、商業高校の成功事例という形で称賛されるようなことがあります。しかしながら、世の中は大きく変わってきておりますし、産業構造や企業活動が変化する中で、伝統的な商業教育、これはもちろん大事なことですけれども、それに加えて、新しい分野としての教育が求められるのではないかとこのころが、パイロット的なニュアンスになっていると思ます。その中の一つで、アントレプレナーシップ、マネジメント、マーケティングなど、これまで商業教育の中でもそれほど余力を入れてこられなかった分野、ここを是非開いていきたいという思いがございませう。殻を一つ打ち破って、新しい実践型ビジネス教育に取り組む学校に、新校として進んでいけたら良いと考えています。

臼倉委員長 他にございませうでしょうか。

藤波委員 先ほど御説明があった、統合をした後のこの新校は、普通科と商業科の2学科になると書いてあったと思ますが、ビジネス教育というところがすごくうたわれていて、私も初めてこういう委員会に立ち会ふものですから、目指す学校というところで、これが学校に入りたいと子供の選択肢になると思ますので、普通科と分けてしまうと、この学校に入りたいという選択肢がぼやけてしまうような気がするのですけれども、そういったところは、私の認識が間違っていたら申し訳ないのですが、いかがでしょうか。普通科と商業科と書いてあったと思つたのですが、違ひませうでしょうか。

臼倉委員長 学科に対する考え方について、事務局からお願いします。

事務局 先ほども申し上げましたが、募集学級数とか学科の名前などについてはこれから検討していくのですが、基本計画のベースになる基本方針では、今、御指摘いただいたとおり、普通科と商業科の併置の学校であるということをやっています。これは現在の八潮高校の普通科もそうですし、八潮南高校では実際に普通科と商業科の併置校なので、その流れを汲んでいるという考え方もあるかと思えます。ですので、どうしてもビジネス分野とか、新しい挑戦をしようとか、ビジネスのパイロット校といった記載が多くなっておりますので、普通科の内容が薄いのですが、実際には普通科の生徒のニーズもあるでしょうし、普通科の教育課程もこの学校に組み込みながら、特色としてはビジネス分野の商業教育に特色を出していこうということです。例えば、もしかしたらハードルは高いのかもしれないですが、株式会社を学校として運営するのだとしたら、指宿高校や岐阜商業高校がそうなのですが、生徒全員が出資者、株主となって、というやり方で株式会社を運営しています。ですから、普通科も商業科も全部含めて出資者になって株主になってという取組ができれば、学校全体で、普通科でありながらもビジネスを学べるということがあるかと思っています。

藤波委員 もう一点、すいません。八潮の立地として、つくばエクスプレスがありまして、埼玉の外れなんですね。東京に近い、茨城、千葉、こういうところから通う人たちが多くなるかと思いますが、県立として八潮のこの地で、どれだけの生徒がどういうふうに通学をするのか。今日の話ではないと思いますが、その辺りが疑問というか、今後考えて行かなければいけないのかなと思いました。県の人だけでなく、都民とか茨城とか千葉の人からも募集をすることが前提となっているのか確認したいと思います。

事務局 それぞれの学校の案の中には、生徒募集というパートもあるので、またそこでお話が出るかもしれませんが、埼玉県内の県立高校の入学の資格というものがありまして、埼玉県内に保護者と共に居住していることが条件となっています。ですので、東京都民や千葉県民、茨城県民は入学できないのですが、埼玉県と千葉県に関しては、お互いに、県境の住民の皆さんの便宜を図るということで、隣接県協定と呼んでいるのですが、相互に出願できるようにしようということにしており、一部の生徒は、他県から通っているかもしれません。ですので、千葉県からは入学することが可能です。

臼倉委員長 非常に大事な視点かと思えます。その辺りも今後、詰めていくことになるかと思えます。その他、いかがでしょうか。八潮南高校の案にもありますが、全体を通して言えることなんですけれども、地域との連携というのが一つ、大きなテーマになるかと思えますので、この辺りについて何かアイデアや御意見などがあればお出しいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

菊池委員 行政的な立場として、現在の八潮高校、それから八潮南高校とは、いろいろな面で御協力をいただきながら共同の事業等を実施しております。例えば、八潮市の広報誌『やしお』の編集に、毎年、八潮南高校の生徒が編集するページと八潮

高校の生徒が編集するページがあります。ここのところ、コロナの関係でできていなかったのですが、2年くらい前までは毎年、編集の御協力をいただいていたりと、それから八潮市が、今年の1月に市制施行50周年を迎えまして、それに当たりまして八潮高校の生徒と地元企業のモンテールがスイーツの共同開発をするということで、今まで様々な取組をしております。今後、新校になった際も、是非そのような、地元の活性化を含めまして、御協力をお願いできれば、こちらとしても関わりを持っていきたいと考えております。

臼倉委員長 御意見ありがとうございました。事務局から何かありますか。

事務局 なかなか文言にストレートに出ていなかった部分ではあるかもしれませんが、現在の八潮南高校、八潮高校の大切なこれまでの取組ですので、是非、新校も引き継いでいかなければならないと思いますし、更に良いものになればと思っています。

臼倉委員長 その他、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは先に進みたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局 (八潮新校基本計画検討(案)のうち教科指導について説明)

臼倉委員長 教科指導ということですが、ただ今の説明について、御質問、御意見等はございますでしょうか。

栗田委員 これまでもそうだったと思うのですが、一つの学校の中に、商業科と普通科があったりした場合に、科が違くと、全く違う学校くらいの分断がされているのでしょうか。教科横断ということで、例えば数学と何かと一緒にやるといような、TTで授業をするということもありますが、商業科と普通科が一つの枠の中にあって、パイロット校としてやっていくわけですが、商業科の授業と普通科の授業を横断的にというのは可能なのでしょうか。カリキュラム的に。

事務局 確かに教育課程が違いますので、ただ、例えば探究的な学びというところを、専門学科では、課題研究などに置き換えられるということをやっているのですが、そうしないで総合的な探究の時間として普通科と揃えて、商業科の総探と普通科の総探が相互に横断しながらということは、やろうとすればできるかもしれないと思います。ただ、栗田委員御指摘のように、学校が違うくらい感じになってしまうということは、これまでの普通科と専門学科の併置校を見ていると、確かに教育課程は別なのですが、例えば全校生徒を対象とした講演会であるとか統一的なイベントを同時にやることによって、それぞれ持っている特色が全体に染みわたるといったことはあると思います。ですので、普通科と商業科というところをうまく乗り越えられるような取組も検討できたら良いと考えています。

栗田委員 先ほどからすごく興味があるのが、科が違う中で、協力をしながら単位を取っていく、授業をしていくというところで、それこそがビジネスということですね、社会に出たときにいろいろな学びがあるわけで、商業科の生徒だと強みはこれ、普通科の生徒の強みはこれというふうに、その強みを一緒にして、何かやっていくというような、今この二つの高校がやっているか分かりませんが、せっかく商業科と普通科があるのであれば、乗り越えながらやっていって、普通科の生徒たちはあ

れが得意だよ、じゃあそれは普通科の生徒にお願いしようよとか、強みを生かすようなカリキュラムができたなら良いなと思いました。

臼倉委員長 八潮南高校が普通科と商業系の学科が置かれていますので、現状等を御説明いただければと思います。

町田副委員長 八潮南高校の現状ということで、現在、本校は普通科2クラス、商業科2クラス、情報処理科2クラスの計6クラスです。学科が違いますと教育課程が違うので、平日の授業は、商業科は商業科、情報処理科は情報処理科といったようにそれぞれ分かれてやっているという状況です。分断されているのかと言われると、確かに授業ではカリキュラムが違うのでそれぞれのことをやっていますから、違う内容ですよということですが、学校として分断されているかと言われると、当然、学校行事は、体育祭もいろいろな行事も一緒にやっていますので、生徒同士の分断ということは決してありません。また、本校の特徴として、普通科の中でも現在、商業科目を入れていたりしますので、そういう面では、お互いに、普通科だから全然商業科のことは分からないよということではなく、それぞれの学科の生徒が、ある程度、こんなことやっていますよというのは理解しながら進めているという状況です。

臼倉委員長 ビジネス関係の学科と普通科の併置校というのが、基本的なコンセプトとしてうたっていることですので、その中でどういう形が良いのかを、ここに書いてあることを中心にこの後考えていくのかなと思っております。恐らく、大学の学科ほどの独立性はないかなと思うのですが、その辺りも、どういう形が良いのかということこの後考えていければ良いと思います。その他、何かございますでしょうか。

藤波委員 今の話なのですけれども、普通科とビジネス科ですか、その二つある必要はあるのでしょうか。分からないですが、こういう形でやるのであれば、ビジネスだけの学科、専門の学科だけで良いのか、やはり普通科がないといけないのか、その辺りはどうなのでしょう。

事務局 中学生のニーズと言いますか、そういったところを定量的に見ているわけではないですが、ただ、毎年毎年のこの地区、このエリアの中学生の志願状況などを見ていても、普通科に対するニーズが一定程度あるものと思っておりますし、現状を先ほど申し上げましたが、八潮南高校は普通科と商業科、2クラスと4クラスというクラス数の違いはありますが、普通科も2クラスありますので、そういった意味で、八潮高校とも統合するわけですし、普通科とビジネスと、二つの入口を設けるべきかなということで県として打ち出しております。

臼倉委員長 その他、いかがでしょうか。

山崎委員 私自身が八潮南高校の普通科だったので、子供目線と言いますか入学する目線で言うと、私は、インターネットは苦手だなという苦手意識があったので、その中で専門に特化されると課題があるなと中学生ながらに不安要素があったので、インターネットとか、商業科だと実際に簿記という分野があり中学生だとまだ分からないので、まずは触れるだけでも、普通科に入ってみれば、商業、情報処理や

インターネットなどそちらの分野で将来性を考えることもできるかなど。3学科あっても、部活動などは一緒ですし、科が違って親しくなる友人もいましたので、課題で分からないことは商業科の得意な方に聞いたりとかもしていました。普通科でも、確かに情報処理科や商業科より、専門の課題も授業もなかったのですが、実際に私は保育士をやっているんで、そこはなくても大丈夫かなど。いろいろな選択肢がある上で、普通科から入ってみようかなどという人も多いのではないかと思います。商業科だけとなると、商業に特化していて、将来性が見えないのに入ってみようという中学生は余りいないのかなど考えると、一緒に普通科があるというのは良いのかなど個人的には思います。

事務局 この委員会は本当にいろいろなお立場から御意見を頂戴する場なので、いろいろな御意見が、この後の案を作っていく上での参考になりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

臼倉委員長 教科指導について、その他ございますでしょうか。よろしいでしょうか。この先に進みたいと思いますが、生徒指導について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (八潮新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について説明)

臼倉委員長 御質問、御意見等があればお願いします。生徒指導に対する考え方ということですけども。この辺りはどうなんでしょうか、最近の傾向ですとか、そういったことで何かあれば事務局から説明できますか。

事務局 最近、生徒指導の関係で、メディアで取り上げられているのは、校則の関係などがございます。地毛について、本当は髪が生まれながらに茶色いですよという形で証明書を出すというのがあって、それはどうなのという話があったりとか、また、もっと大きな意味での、様々な人権をめぐる変化も話題になっておりまして、心の問題、内面の問題に関わるようなことを、生徒指導という側面だけから厳しく指導していくというのはどうなんだといったことだったり。また、内面の問題としては、例えばLGBTQの方たちへの対応として制服をどうするかといったことも話題に上がっています。そうした最近の生徒指導に関するところを、今の流れをうまく取り込むような形で作っていかねばならないだろうなということで、事務局の方で論点として記載したところでございます。

臼倉委員長 生徒指導というのは、広い意味で捉えて進めていく必要があると思います。そういった観点も含めた作業になってくるかと思います。御意見等ございますでしょうか。

福良委員 家庭との連携というのは、具体的にどこまで想定しているのでしょうか。

事務局 学校での教育がどのように行われているかというのを、家庭と共有しながら生徒の成長を見守っていくことが大事だと思います。ですので、日常的な、本当に些細な、今日はこんなことがあったとか、今、お子さんはこんなことで悩んでいるようすがご家庭ではどうですかなど、担任と保護者の間の日常的な会話から始まり、場合によっては、案の中にも出てきますが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門的なスタッフを交えたような、専門領域に入るよう

な連携も含めてですけれども、いろいろなところを丁寧に行っていく必要があると思います。現在の八潮南高校や八潮高校が丁寧にやってきているところを、更に新校においても引き継いでいき、生徒相談的な形で、生徒一人一人をしっかり見ていきたいというところなのかなと思っています。なので、ざっくりしすぎているかもしれないですが、家庭との連携にはいろいろな意味が含まれているものと考えております。

臼倉委員長 中学校の先生の方から、生徒指導についてなど何か御意見があればお出しただけると有り難いのですが。

砂賀委員 そうですね、生徒指導については、私も八潮が長くてですね、八潮高校であれば、きちんとした生徒指導を長年取り組んでいて、中学を出て非常にシャキッと、部活動だとか、様々な場面でそういった良さが見られ、私はすごく高く評価しています。また、八潮南高校も、部活動以外にも、いろいろな発表だとか、商業的なこととか、いろいろなところで活躍しています。本当に両校とも特徴として良いものを持っていると思います。そういった両校の良さをうまく融合していきながら、新しい学校ができると更に良いなと期待しているところであります。生徒指導に関してはそういったところですよ。

臼倉委員長 ありがとうございます。いろいろな観点から、この辺りは考えていかなければならないかなと思っていますところですが、他に何かございますか。よろしいでしょうか。今出た御意見を踏まえて、事務局で引き続き作業をお願いします。では、先に進みたいと思います。進路指導について事務局から説明をお願いします。

事務局 (八潮新校基本計画検討(案)のうち進路指導について説明)

臼倉委員長 進路指導について、御意見を頂戴できればと思います。栗田委員、お願いします。

栗田委員 これは子供たちだけでなく、恐らく保護者の方々も、とても興味があることで、先ほど入学するときのお話がありましたけれども、入学をするときというのは割と、なんとなく制服が好きだからということで決めたり、〇〇ちゃんも行くからということで、なんとなくと決めるということが15歳くらいだとあるのかと思うので、そこまで深く考えていないと思うのですが、実際に高校に入ってその3年間で、商業科と普通科があったときに、商業科で勉強した強み、普通科で勉強した強みみたいなものが、どんどん強く、浮き彫りになってくると、出口のところの、進学であったり就職であったり、あるいはひよっとするとどこか海外に行くとか、すごく大きな夢を持ったりするような子が出てくると思います。どんな特色というか強みを持った教育をするかで、子供たちはどんどん芽を伸ばすのではないかと思います。ビジネス分野で活躍できる人材の育成というフレーズが度々出てきますが、これが商業科だけでなく普通科の方も同じように、ビジネス分野で活躍できると良いと思います。つまり、卒業したら働くということの楽しさをイメージできるような進路指導をすると、数学が得意だから理系だねといった話ではなくなるような指導ができると良いと思います。よく分析とかデータサイエンスのところに出てきますが、文系理系関係なく、商業科普通科関係なく、まずは何が問題なのだろうか、

何が課題なのだろうか、今何事が起きているのだろうかというような考える力、例えば、株式会社を作るにしても、何か企画案を作るにしても、そういった力が育成されていくと、キャリア教育に結び付いてくるのかなと思います。出口はすごく重要だと思います。

臼倉委員長 ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

事務局 大変勉強になります。我々も同じイメージを持っているつもりなんですけれども、文言としてうまく表現できていないかなと思います。15歳の中学生がどんなふうに強みを磨いていくかというのは難しいところかと思いますが、例えば株式会社の話もそうですし、アントレプレナーシップ教育なども、中学生に理解させること自体がなかなか難しいと思います。私たちが調べた中で、文部科学省の方からのお話を紹介しておきたいと思います。こんなふうにアントレプレナーシップ教育を捉えているようです。「今までの教育は与えられた問題を正しく解く、すなわち正解を求める能力や姿勢が求められていた。しかし自ら課題を発見し、自分事として捉えて問題解決を図る能力や姿勢が求められるようになった現代社会においては、イノベーションの担い手となる人材を育成する必要があると考えている。アントレプレナーシップ教育は、起業家精神を育むという意味になるが、起業に必要な専門知識を学ぶだけでなく、そのためのマインド醸成も含む幅広い概念である。」と文科省はお答えになっていて、まさにそうなんだろうなと考えています。普通科の生徒も含め、そういったマインドが新しい学校、学科の学びで、うまく育てていけると良いと思っています。

臼倉委員長 この辺りの考え方をしっかり持って、具現化のプランをしっかり立てて生徒を迎えるということが大事だと思いますので、丁寧に進めてまいりたいと思います。よろしくお願いします。進路指導について、その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。両校からいろいろな御意見をいただいておりますので、事務局の方で検討をお願いします。次に進めてよろしいでしょうか。では、生徒募集について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (八潮新校基本計画検討(案)のうち生徒募集について説明)

臼倉委員長 先ほど地域性の話も出ましたけれども、両校の校長先生、何かこの辺りで、例えば、他県との行き来ですとか、ここの立地がもたらす特徴について、何かありますか。

久保副委員長 生徒募集については、短めに書いたのですが、本校は普通科で、かなり基礎・基本を丁寧にやっています。先ほどの進路指導のところでも生徒指導でもそうですが、ルールとかマナーに加え、新校をつくるわけですから何か新しいことをつくらないかということで、例えば、社会人になるということを前提とした学び。それから、進路指導のところでもあった起業家精神。ものを作ったり、働くということに関して、もう少し何かプラスしたものを普通科でも見つけなければいけないのかなと思っています。生徒募集のところは、地域性としては御存じのとおり、つくばエクスプレスの影響がある地域で、つくばエクスプレスができた関係で生徒の層が変わったなという印象があります。他のところから来やすくなり、逆に言えば



八潮市から他の地域に流れてしまうということもありますが、地元のことを考えるときにどこまで範囲を広げるのかということは大いいです。企業や商工会、青年会議所などつながってやっていく中で、バランスが良い方を考えると、八潮南高校の立地は良いのかなと思っています。あとは、余りお金がかからない学校にしたいと思っているところです。今ある施設等を活用しながらやっていきたいと思っています。

町田副委員長 本校の生徒の状況ですと、本当に地域に支えられているということですね。実際の話としては、八潮市、草加市、三郷市の3市で、かなりのところを支えていただいております。特に八潮市の中学校からは毎年多くの生徒を送っていただき、大変有り難いと思っております。新たな学校になったときに、更に挑戦するという意味では、少し広げていくということも大切かなと思っております。今現在、他県からは、年に2人か3人ですね、千葉県から通っているという生徒は。それくらいの人数です。まだまだ、千葉県などの隣接県に対しての本校のイメージが広がっていないのかなと思いますので、新校では是非範囲を広げていきながら、新しい学校の良さを伝えていければと思っております。

臼倉委員長 ありがとうございます。非常に生徒募集は大切なところかと思っておりますけれども、PRの方法等も含めて何か御意見があれば、いただければと思っております。

栗田委員 生徒募集は大事だと思います。偏差値も変わってきますし、定員を割ってはいけなし、子供も減っていきますので。そもそも二つの学校を一つにするというのにはそういうこともあるのだと思います。突拍子もないことを言うかもしれませんが、全国区を目指してはいけないのでしょうか。地域ということがあると思いますが、言ってみれば、パイロット校としてアントレプレナーシップを育成するところでは、すごく特色のある教育ができると思います。先ほど申し上げたように、商業科と普通科が連動して行ったり来たりするような、例えば、水曜日の午後は全部その時間にしてしまうとか、多分不可能なのかもしれないですけども、なんとか文科省にお願いして、いわゆるビジネスというのが、これだけできていけば良いという時代は終わったので、いろいろなことができないといけないということで、単価的な学びではなく、ましてやアントレプレナーシップとなると、一城の主になることを目指すわけですから、すごく夢のある、「将来何になる＝公務員」ではなくて、「私は手先が器用だから小さなお店を作りたいんだ」とか何か起業したいということですね。今二つあるのかもしれないですが、それよりももう少し特色を出して、どうやら埼玉県にこんな高校があるらしいぞ、どこか下宿してあそこの高校に行きたいんだという、相当遠いところから下宿してくるみたいな特色を出せば良いのかなと思います。それがアントレプレナーシップとなると、ぴったりなのかと思います。私は当時、そんなことを全く考えなかったですが、そんな子が入ってくると、結構、起爆剤になると思います。すごくハードルを上げているようで申し訳ありません。そんなことを考えています。

臼倉委員長 事務局、いかがでしょうか。

事務局 本当に素晴らしいアイデアだと思います。全国の学校を見ていくと、確かに

全国募集をしているという実例はあります。ただ、恐らく暗黙の了解なのかもしれませんが、多くの場合、過疎の地域だったり、人口が本当に厳しいという都道府県、都はないですね、県とか、そういうところですね。有名なところでは島根県などでは、県全体の人口減少を止めるのが難しいので、学校を一つの地域創生の起爆剤として捉えて、生徒募集でも寮も作ってやっているなどというところはあるのですが、埼玉県は首都圏に位置していることから、たくさんの私立の高校もありますし、生徒募集でもパイの取り合いになっているので、実際のところ、なかなか難しいのかなと感じています。実際に東京、神奈川、千葉でもやっていませんし、なかなか現実問題としてハードルはかなり高いのかもしれませんが。

栗田委員 思い付きで言っただけなので。

事務局 でも、栗田委員の思いと言いますか、それくらい、全国に名だたる取組というのをPRできるような新校にしていきたいと思います。先ほども申し上げましたが、出願資格の基本要件としては、埼玉県内に保護者と共に住んでいるということが公立高校の基本の出願要件となるので、これを覆すのはなかなか難しいというのがあります。

臼倉委員長 その他、いかがでしょうか。生徒募集は各学校が今でも非常に心を砕いてやっているところがあります。先生方の考え方というか教職員の思いみたいなものがあると思います。また、中学生や保護者などからもいろいろな思いがあるかと思っています。その辺りを丁寧に汲んでいきながら進めていきたいと思っています。生徒募集関係はよろしいでしょうか。それでは続けてまいります。事務局から説明をお願いします。

事務局 (八潮新校基本計画検討(案)のうちその他について説明)

臼倉委員長 その他を含めて、全体を通して結構です。全体を振り返っていただいて、御意見、御質問等があればお願いしたいと思います。特によろしいでしょうか。それでは、よろしければ協議を終了したいと思います。